

第5次台東区男女平等推進行動計画「はばたきプラン21」
令和6年度（2024年度）進捗状況に対する評価

総評	台東区の男女平等推進行動計画に対する事業ごとの進捗状況によると、前年度実績と比較して、参加者等が増加している事業が多くあり、評価できる。 一方で、審議会等における女性委員の割合や、女性の視点を取り入れた防災対策が行われていると感じる人の割合が依然と低く今後も引き続き方策を検討しながら働きかけていく必要がある。 今年度で、第5次計画が終了となるが、評価指標に掲げた目標の半数が達成できていない。様々な課題を乗り越え、教育等による意識改革を進めるとともに、育児や介護が男女平等の分担となるような方策の情報提供、女性リーダーの積極的な育成・登用のための企業への働きかけと支援策の整備等をより積極的に行うことが必要である。 来年度以降に評価を行う第6次計画では、目標や評価指標を社会や区民ニーズの視点で再考することも必要である。これらの検証を通じて、第6次計画では、より多くの目標が達成されることにより、男女平等社会の実現が進められることを期待する。
----	---

基本目標1	あらゆる分野への男女平等参画の促進
-------	-------------------

【施策(1)】	男女平等意識の形成
---------	-----------

評価指標	「男性は仕事、女性は家庭」という考え方を否定する人の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果	
		全体	72.8%	88.1%	80%	達成
		男性	67.8%	85.5%	75%	達成
		女性	77.8%	90.4%	85%	達成

根拠となるデータ	男女平等に関する台東区民意調査(令和5年度実施)
----------	--------------------------

取組の方向性	①男女平等参画を推進する広報・啓発活動の充実 ②男性への男女平等参画の取組 ③教育における男女平等意識の形成に向けた取組
--------	--

評価	評価指標は目標達成をしており、男女平等意識の形成は着実に進んでいると思われる。今後も、「はばたき21通信」などによる情報発信や、講座や研修などで継続的に啓発を続けていただきたい。 しかしながら、評価指標において、男性の割合が目標より大幅に増えたものの、女性に比べると割合は依然低く、男女の意識の違いを感じる。男女平等意識については、男性の意識改革が重要である。男性の育児や介護への参画に向けた講座や男女平等を進める啓発などの取り組みを引き続き継続し、男性の意識改革を今後一層推進していただきたい。特に、平等意識の形成は、継続的な取り組みによって保障されることから、男女間の意識の違いを縮めるような教育・学習の機会提供を求めたい。合わせて、教職員や保育士等を対象とした研修において人権研修の拡充を求めたい。
----	---

【施策(2)】	意思決定過程への男女平等参画の推進
---------	-------------------

評価指標	審議会等における女性委員の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		28.1%	27.9%	35%	未達成

根拠となるデータ	審議会等への女性の参画状況調査(令和7年4月1日時点)
----------	-----------------------------

取組の方向性	①審議会等への男女平等参画の推進 ②区民が立案・参画する機会の増加 ③区民の社会・地域活動への参加の促進
--------	--

評価	第5次計画期間内において、評価指標が目標に達成していない状況が続いていた。令和6年度では策定時より低くなり、目標達成から遠ざかっている。委員を選任する時の方法についての工夫や、所管横断での働きかけと進捗管理を強め、構成比を計画的に改善する必要がある。 意思決定過程への参画は個々に任せるだけでは不十分であることから、推薦元団体や任命手続の見直し、制度の改正など、より踏み込んだ働きかけや、アフターマティブ・アクション(積極的差別是正措置)を求めたい。
----	--

【施策(3)】	男女平等参画の視点に立った防災・復興体制の確立
---------	-------------------------

評価指標	女性の視点を取り入れた防災対策が行われていると感じる人の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		16.3%	6.7%	30%	未達成

根拠となるデータ	男女平等に関する台東区民意調査(令和5年度実施)
----------	--------------------------

取組の方向性	①男女平等参画の視点に立った防災・復興対策の推進
--------	--------------------------

評価	評価指標が策定時よりかなり低くなり、計画目標に届くことがさらに困難となっている。これは、防災領域の男性偏重文化や意思決定場面での女性参画不足により、女性の視点を取り入れた防災・復興対策が行われていないと感じられている一方で、地震や自然災害の増加に伴う防災対策への意識の向上や、ジェンダーへの理解の向上の現れとも言える。 防災・復興にあたっては性別や性にこだわっている場合でないとならなければならないが、生命に関わることであるからこそ、女性や多様な当事者の参画や多方面での連携の確立が必要である。災害発生時の課題、特に女性が困った点など調査検証し、評価指標である「女性の視点を取り入れた防災対策」を明確にすることが必要である。男女平等参画の視点や多様な要件に基づくニーズを把握し、防災・復興対策の推進を求めたい。
----	--

基本目標2	職業生活における女性の活躍推進
-------	-----------------

【施策(4)】	女性の就業・登用・起業の機会拡大				
評価指標	職場での男女差別が「特にない」と思う人の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		42.2%	38.8%	50%	未達成
根拠となるデータ	男女平等に関する台東区民意調査(令和5年度実施)				
取組の方向性	①働き方の変革と女性の活躍推進に向けた事業者等への取組の支援 ②女性への就職・再就職支援、起業支援、キャリア形成支援 ③区における働き方の変革と女性の活躍推進				
評価	女性のための就業支援や事業者・起業家などへの多角的な支援に取り組んでいるものの、評価指標が策定時より低くなり、計画目標に届かなかった。 女性の就業・登用・起業は増加傾向にある。職場における男女差別の実態を把握し、事例の発信や関係機関が連携することで、職場理解の促進や雇用上の性差別のさらなる是正を求めたい。女性への家事・育児・介護負担の偏在や各種ハラスメント問題など、社会全体の意識改革を求めたい。				

【施策(5)】	ワーク・ライフ・バランスの実現				
評価指標	仕事、家庭生活、個人の生活の調和がとれていると考える人の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		8.0%	10.9%	30%	未達成
根拠となるデータ	男女平等に関する台東区民意調査(令和5年度実施)				
取組の方向性	①ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発 ②ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた企業等への支援 ③出産・育児・介護に対する職場の理解の促進				
評価	評価指標が策定時より微増したものの、計画目標達成にはまだ遠く、仕事が優先される現実と、個人の生活が優先できる理想とのギャップが大きいものと思われる。出産・育児・介護に関する制度の導入において、中小企業では大企業と同様に実施することが難しい面も多い。区民や企業の意識啓発や意識改革を図るためにも、企業ニーズを把握し、国や東京都の施策や助成制度の周知強化や、他行政や企業等との横断連携を強化することが必要である。 一方で、台東区のワーク・ライフ・バランス推進企業認定数は前年度より増加し、順調に取り組む支援が進んでいることは評価できる。引き続き認定企業への支援や、ワーク・ライフ・バランスに関する理解の促進を図ってほしい。				

【施策(6)】	子育て世代・介護者への支援				
評価指標	台東区が子育てしやすいと感じる割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		52.0%	55.2%	増加	達成
根拠となるデータ	次世代育成支援に関するニーズ調査(令和5年度実施)				
取組の方向性	①多様な子育て支援サービス・保育サービスの充実 ②子育てに関する支援者の育成 ③子育て世代の居場所づくり、ネットワークづくりの支援 ④ひとり親家庭等への支援 ⑤介護者への支援				
評価	「台東区が子育てしやすいと感じる」割合は目標達成しているものの、上昇率は3.2%と微増である。 しかしながら、様々な事業を展開し、多くの事業の利用が増加しており、台東区の手厚さを感じられる点は、評価したい。引き続き、男女平等の視点を意識しながら、こうした事業を丁寧に推進してほしい。 まだまだ当事者にしか見えにくいニーズがあり、それらを積極的に把握するとともに、現制度の周知の強化、利用者の声に基づく改善、男女平等の視点に立った負担の見直しを丁寧に継続し、負担の偏在解消と切れ目ない支援を進めてほしい。				

基本目標3	誰もが安心して暮らせる環境の整備				
-------	------------------	--	--	--	--

【施策(7)】	配偶者等からの暴力の防止及び被害者保護				
評価指標	DV(ドメスティック・バイオレンス)の被害経験がある人の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		27.5%	21.2%	減少	達成
根拠となるデータ	男女平等に関する台東区民意調査(令和5年度実施)				
取組の方向性	①DV相談業務の充実と関係機関との連携 ②DV被害者の安全の確保と自立支援 ③配偶者等からの暴力を防止するための取組				
評価	相談件数が大きく伸びており、相談窓口の利用や認知が拡大したことで、目標が達成したと推察される。特に、「こころと生き方なんでも相談」でLINEによる相談が出来たことで、利用人数が増加し、従来と比較し、若年層や男性からの相談ニーズも発見できた。しかし、まだ氷山の一角で泣き寝入りの人が多くいる可能性や、そもそも被害を「被害」として認識すること自体が困難であることから、行政をはじめとして区内のあらゆる場所で、区民への周知を求めたい。特に、身体的暴力だけでなく、言葉による精神的暴力なども課題である。区で開催している支援調整会議等を通じて、行政や民間団体等の関係機関と連携し、加害者プログラムや予防教育を拡充し、実被害の縮減につなげていってほしい。 また、相談員に対する研修やメンタルケアなど、相談員の体制を強化し、被害者の安全確保と自立支援を継続実施していただきたい。				

【施策(8)】	あらゆる暴力の防止への取組				
評価指標	セクシュアル・ハラスメントの被害経験がある人の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		11.1%	13.1%	減少	未達成
根拠となるデータ	男女平等に関する台東区民意調査(令和5年度実施)				
取組の方向性	①ハラスメント防止のための取組 ②ストーカー行為・性暴力等の防止に関する意識啓発と相談業務の充実 ③若年層の性的搾取の防止に関する啓発				
評価	評価指標が策定時より微増し、計画目標達成は達成できなかった。 ハラスメント防止への取組は啓発が中心であり、内容を工夫しつつ、対象者の拡大や変更をしながら、継続的に研修等を行うことが必要である と考える。その際、人権尊重の理念を繰り返すだけでなく、具体的な対応等を含めるなど研修の工夫を期待したい。 特に、SNS被害の深刻化を踏まえ、児童・生徒に対するスマートフォンルール等の啓発やSNSの危険性に対する教育や、教職員に対する研修等 を実施し、子供たちを犯罪から守るよう、更なる対策を求めたい。				

【施策(9)】	生涯を通じた男女の健康支援				
評価指標	乳がん検診受診率	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		42.2%	51.2%	50%	達成
		子宮頸がん検診受診率	49.0%		53.7%
根拠となるデータ	健康づくりと医療に関する区民意調査(令和5年度実施)				
取組の方向性	①女性の人生の各ステージに対応した健康支援の充実 ②生涯を通じた健康づくりの推進				
評価	評価指標は目標達成し、女性のライフステージに対応した取り組みも充実していることから、ライフスタイルに合わせた受診のしやすさ等への配慮や継続受診勧奨に取り組んでほしい。 生涯を通じた男女の健康支援を実現するためにも、性行動の低年齢化による若年層への教育や健康意識啓発、現代社会生活における運動不足やデジタル機器による視力低下などに対応した事業や啓発、高齢者等が健康でいきいきとした生活を送るために地域の協力や連携の強化等の実施に期待する。				

【施策(10)】	困難を抱える方への支援の充実				
評価指標	人権が守られていないと考える区民の割合	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
		29.3%	33.2%	減少	未達成
根拠となるデータ	台東区民の意識調査(令和5年度実施)				
取組の方向性	①高齢者への支援 ②障害者への支援 ③外国人への支援 ④性の多様性に関する理解の促進と相談体制の整備				
評価	「人権が守られていない」と考える割合は策定時より増加し、目標を達成することができなかった。人権侵害の理由として、男女(性)に関する差別、子供に対するいじめや虐待、障害者に対する差別であった。 一方で、高齢者や障害者等の困難を抱える方に対する様々な支援や事業の実施状況については、概ね増加傾向であり、評価できる。今後はさらに、外国人、セクシュアル・マイノリティを含めた、多様な区民が地域社会に存在することを前提とし、共存の意識啓発を進めた支援の充実や、孤立を防ぐために地域の連携強化を求めたい。				

計画推進の基盤	ジェンダーの視点による区政運営の推進
---------	--------------------

評価指標名	根拠となるデータ	策定時	令和6年度 評価時	計画目標 (令和6年度)	結果
台東区男女平等推進基本条例の認知度	男女平等に関する台東区民意識調査(令和5年度実施)	26.7%	31.1%	30%	達成
台東区男女平等推進行動計画はばたきプラン21の認知度		25.5%	27.2%	30%	未達成
男女平等推進プラザの認知度		13.0%	18.6%	30%	未達成

(1)	男女平等参画の総合的推進
取組の方向性	①全庁的な推進体制 ②職員に対する教育・研修体制の充実 ③施策・事業を推進するための評価体制づくり
評価	評価指標のうち、「台東区男女平等推進基本条例の認知度」については目標を達成しているが、それ以外の指標で目標を達成できていない。「台東区男女平等推進行動計画はばたきプラン21」及び「男女平等推進プラザ」の認知度を高める工夫が必要である。令和8年の男女平等推進プラザ(生涯学習センター)のリニューアルオープンに向けて、周知を強化してほしい。 ジェンダーの視点に立った区政運営を総合的に推進するため、区職員への研修や、表現・選定ガイドラインの運用徹底などを継続して取り組むことが必要である。

(2)	男女平等推進プラザの充実
取組の方向性	①区民との協働による活力ある運営 ②相談事業の充実 ③男女平等に関する取組の充実と認知度の向上
評価	現在、男女平等推進プラザは生涯学習センター機能強化工事に伴い休館中だが、移転先の施設でも、概ね従来とおりの事業は継続している。特に、相談業務では、LINEによる相談を始めたことで件数が増加し、男性を含む新たな困難者の掘り起こしに寄与している。また、相談員は適正配置とし、国や東京都等が行う研修に加え、令和7年度からはDV被害者だけでなく困難女性の相談支援についても適切に対応していけるよう、区独自の研修を企画実施するとあり、より一層の資質向上を期待する。 改修終了後においても、推進会議での協議や、これまでの実績を踏まえ、男女平等推進プラザの活用事例や実施事業、その成果を幅広く区民に周知することが必要であり、積極的な運営を期待する。

(3)	国・東京都・NPO等との連携
取組の方向性	①国・東京都・NPO等との連携
評価	区政を運営する上で国や東京都、NPO等と連携しながら迅速に進めていくことは必要なことである。 例えば、女性が働きたいが様々な困難や障害があるために社会進出が遅れるといった複合的・横断的要素がある場合、一自治体では解決困難な課題であり、国や東京都への働きかけを推進していくことが必要である。ワーク・ライフ・バランスの推進や、DVやハラスメントの防止等、ジェンダー平等社会の実現に向けて、国・東京都・近隣区・NPO・企業と適切に連携しながら進めることを期待する。